

明日に向かって

発行：田老元気なまちづくりプロジェクト実行委員会 (TGM) 編集部
 連絡先：080-6291-0514
 発行責任：黒田陽子
 助成：トヨタ財団

復興に向け元気を発信

伝統の体育大会 賑やかに開催



体育大会で実施された2人3脚パン食い競争

66回目を迎えた田老地区体育大会が、10月7日に田老第一中学校のグラウンドで行われた。今大会では、以前のような地区対抗のかたちとは異なっていたものの、「宝ひろい」や「田老名物」など工夫を凝らした競技に多くの住民が参加。日頃の運動不足を解消するべく熱戦を繰り広げ、震災からの復興に向けた住民の元気を示した。

「お祭りよりも体育大会」といわれているこの行事は、震災があった昨年度も規模を縮小したものの、実施された。今年度も、震災以前のように事前に各地区で練習を重ねて参加するまでには至らなかったが、企画・運営を担当する実行委員会メンバーの努力もあり、賑やかに実施されたのは、菓子に入った袋を拾ってゴールする「宝ひろい」や「田老名物」。「田老名物」は、ウニ、アワビ、サケの漁にちなんだ競技で、ウニに見立てたタワシをすくい上げたり、アワビ捕り専用のカギ棒でアワビの殻を拾ったりする

「田老名物」に歓声

実施されたのは、菓子に入った袋を拾ってゴールする「宝ひろい」や「田老名物」。「田老名物」は、ウニ、アワビ、サケの漁にちなんだ競技で、ウニに見立てたタワシをすくい上げたり、アワビ捕り専用のカギ棒でアワビの殻を拾ったりする

講座のお知らせ

第3回「田老いき学」講座

10月より行っている同講座の3回目を、東洋大学国際地域学部の藤井敏信学部長を講師にお招きして、下記の要領で実施いたします。

日時：12月15日(土)

18時～20時

以降懇談会あり

場所：グリーンピア三陸みやこ

受講料は無料です。参加申し込みは、TGM事務局まで。(080-6291-0514)

競技者に、観客から大きな声援が送られていた。

大会実行委員長の林本卓男さんは、「大会が迫るにつれ、責任の重さに不安が増しましたが、関係者の協力ですべて無事実施できたことを感謝しています」と語った。

このように戦後の復興を願って始まったこの大会は、震災からの復興を目指す大会として新たな歩みを始めている。

田老の主婦たちによる手仕事の団体「ゆいとり」は、グラウンド集会場やサポートセンターで活動している。所属している約10名のメンバーは、自分のペースで得意な作業を行っている。

同団体は、仮設に閉じこもらず

みんなで楽しく仕事をしようという思いで立ち上げられた。今作っているのは、全国から支援物資として送られてきた着物や衣類などの布を使った小物入れ、ブックカバーが主流。そのほか、どんぐりを使ったブローチ、トチの実を使ったストラップなど様々な商品も作っている。

TGMでは、嬉しかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと、耳よりな話、そして俳句や短歌などのご応募お待ちしております。賞品はありませんが、みんなで楽しめるコーナーをくりたいと思います。投かん箱は、たるちゃんハウスB棟1階、自販機近くにありす。

たるちゃんハウス お店紹介③

ヤマキ商店 要望に応えられるように



たるちゃんハウスB棟の1階で、生活雑貨やお菓子などを販売し仮設住民の生活を支えている「ヤマキ商店」。経営者の山本百合子さんは、「入れ歯用洗剤や生花、駄菓子など各年代の方の要望に応えるように努力しています」と話す。

営業時間は、8時から18時までで、定休日は毎週日曜日。

田老ガス水道設備工業

快適な生活に貢献



たるちゃんハウスA棟2階に衣類乾燥機コーナーを設置している(株)田老ガス水道設備工業。衣類がふっくら乾くので、たいへん喜ばれている。

営業時間は9時から18時40分で、定休日は毎週日曜日。利用料金は20分100円から。そのほか、檜内の本社では、ガス水道のメンテナンス業務も。



山本先生(右端)を迎える講習会

楽しくベビーハンモック講習会

仮設と在宅住民の懸け橋に

10月24日、25日に、グリーンピア内の焼肉ハウスで、ベビーハンモック作りの講習会が行われた。

この講習会は、東京から山本忠道さんを講師に迎

え、今年の1月から行われているもので、今回は仮設、在宅合わせて7名の住民が参加した。

ハンモックの材料に使うのはオーガニックコットン

手仕事の会「ゆいとり」 主婦たちが特技を生かして



「ゆいとり」の代表を務める大棒さん

あなたの一言葉を募集

特集 田老一中祭 華やかに開催 復興教育の成果を披露

田老第一中学校の文化祭「一中祭」が、「伝えよう！灯そう我らの進む道」をテーマに、10月27日に行われた。震災後2回目ということもあり、地域の復興をテーマにした発表や合唱の披露などが行われ、震災後同校が取り組んできた復興教育の成果を示すイベントになった。また、昨年が続いて宮古市の姉妹都市である八幡平市から西根第一中学校の生徒も来校。エールの交換などの交流イベントも賑やかに実施された。

発表や合唱など充実の内容で 1年生が「田老未来予想図」を

9時に始まった「一中祭」の開会式の中では、実行委員長の挨拶に続いて、朝日に向かって船出をする風景を描いた大きな絵が披露された。

その後、午前中に弁論発表や英語暗唱、学年発表、午後には吹奏楽部発表、合唱発表と盛りだくさんの企画が実施された。

画が実施された。

その中で、弁論発表では3年生の山本拓実君が「未来に続く海」という演題で、父の潜水士という仕事が漁



午前中に行われた2年生の学年発表

だけでなく震災の際に必要なことを知って、自分も志すようになった過程を話した。また学年行事では、1年生が総合的な学習の時間に取り組んできた「田老未来予想図」を発表。2年生は語り部活動や職業体験などに関する発表を、3年生は、4月に行われた修学旅行で、震災を通じて出会った方を訪問した経験などについて発表をした。

全校で「ボイジャー」

八幡平市から訪れた西根第一中学校の2年生も交えて行われた午後の部では、まず吹奏楽部が「小さな恋の歌」など4曲を披露。レ

ベルの高い演奏に開場から大きな拍手を受けた。その後の合唱発表では、「はかなくも...」「ねがい」「通り過ぎる風に」の各学年の発表に続いて、全校生徒が舞台上上がり「ボイジャー」を歌った。また、2年生と3年生の発表の間には、西根第一中学校生が

同校の校歌を披露した。その後、田老第一中学と西根第一中学校の交流では、両校応援団がそれぞれの生徒をリードして、エールの交換が行われた。最後に行われた閉会式では、全校生徒が「伝えよう！思い」のパフォーマンスを力強く披露。爽やかな盛り上がりの中で行事は幕を閉じた。

編集後記

今回、新聞づくりのために訪問した際には、今後の田老を担う中学生の文化祭を取材しました。堂々とした発表や合唱を行う姿を見て、未来に向かって、しっかりとした意思を持ったその姿勢に感動するとともに、自分も頑張らなければという思いを新たにしました。

今後も、取材を行うと思いますが、よろしくお願います。(DTPA一同)

西根一中生が来校 深まる交流 今年も



田老一中にエールを送る西根一中生

田老第一中学校と西根第一中学校の交流は、昨年7月に、現在の3年生が招待を受け、同校を訪れ交流を実施したことに始まった。そのきっかけは、宮古市と西根第一中学校がある八幡平市が姉妹都市であること、両校の校長先生が旧知の関係であったことなどだ。

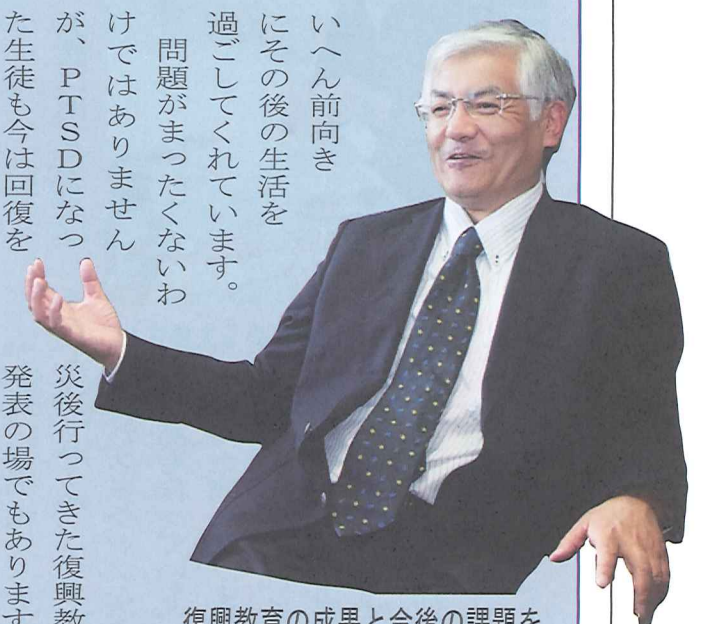
昨年の「一中祭」に同校の生徒と保護者が来校し、豚汁の提供などを行ったことで関係が深まり、今回の訪問でも、同校生徒が協力した義援金が届けられた。

今回の一中祭について生徒会長の加藤諒太君(3年)は、「3年間の集大成としてよい文化祭にできたと思います。特に合唱は練習の成果を出せたと感じています」と、弁論発表を行った山本拓実君は、「当日は緊張して、話すが早くなっ

佐々木力也校長先生

「感じた大きな手応え」

課題は今後の引き継ぎ



復興教育の成果と今後の課題を語る佐々木校長先生

いへん前向きにその後の生活に過ごしてくれています。問題がまったくありませんが、PTSDになった生徒も今は回復を

通じ、心を強くしてくれてるように思えます。今回の「一中祭」は、震災後行ってきた復興教育の発表の場でもあります。復興教育に関しては、震災を伝える語り部の活動や命の大切さを伝える活動など、これまで先生方と悩みなが

ら組み立ててきました。しかし、この日の発表を見て、たいへん大きな手応えがあり、その取り組みは間違っていないという確信を得ました。